平城遷都1300年記念経済フォーラム

東の国の経済と文化

日本と東アジアの未来を考える

東アジア各国の多様性尊重が良好な経済関係構築に不可欠

奈良県と日本経済新聞社はこのほど、奈良市内で平城遷都1300年記念経済フォーラム「東の国の経済と文化　日本と東アジアの未来を考える」（協賛＝近畿日本鉄道、南都銀行、森精機製作所）を開催した。2010年が平城京への遷都から1300年目に当たるのを記念して開いているこの催しは、今回が4回目で締めのフォーラムとなる。今回は関西経済界のリーダーと中国人留学生による地元メッセージに続き、構想日本代表の加藤秀樹氏が講演、「グローバル化の進展の陰に隠れた数値では表せない付加価値を見直すべきだ」と指摘した。続いて開かれたパネル討論では、情報や医療をキーワードに、日本と東アジアの近未来について展望した。

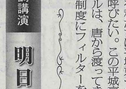
主催者あいさつ

奈良県知事 荒井正吾

1300年前の奈良時代、グローバルセンターとして栄えていた国である。中国を唐をはじめ多くの文化、アジアの国々と交流していた。そのような日本の知恵と技術を、今日日本はグローバルの中で、今後日本の文化の発信に役立てたい。

平城遷都1300年祭公式マスコットキャラクター ぜんとくん

モデレーターあいさつ



編集工学研究所所長 松岡 正剛氏

平成京は最初からグローバルセンターとして出発した。当時のグローバルスタンダードは唐の官僚制度、法律、貨幣制度に至るまで、先行してきていた。それらが海を渡ってきて日本に開いたのだ。こういう、新文化がなければ都は成立しない。今後の東アジア諸国の経済が急成長し、政治的発言力が強まっている。新たなグローバル化が進む中、今後の東アジア諸国の経済が急成長し、政治的発言力が強まっている。新たなグローバルスタンダードを作り直す時代に入ったのだ。唐の文化を学び、日本は「メリンスタンダード」を作り直す時代にきている。そういう意味で、このフォーラムは、文化を様性とする地域を作って参画したい。

基調講演　明日の経済社会を仕分ける

構想日本 代表 加藤 秀樹氏

定型・数値化進み 中身おろそかに

グローバル化進展の陰に隠れた数値に表れない価値の見直しを

（法令順守）を守るために作って許認可を出している。そういった形式的な価値として、ひょっとしたら将来世界が見習うのかもしれない。

日本の自動車の静かさに、欧米のメーカーが驚いたことも、ひょっとしたら将来、